

講義科目名称： 基礎看護学実習Ⅱ

授業コード：

英文科目名称： Basic Nursing Practice II

| | | | |
|-------------------------------------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 前期 | 2 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 吉井 紀子, 中馬 成子, 塩野 徳史, 西山 忠博, 田中 亮子 他 | | | |
| 添付ファイル | | | |

| | |
|---------------------------|---|
| 科目の概要 | 本科目では、講義や演習で学んだ知識や技術、方法論を活用し、病院で療養生活を送る患者に対して基本的ニーズの充足を焦点に、科学的根拠に基づいた系統的看護過程を展開し適切な日常生活援助を実践する。実際の援助体験を通して、対人関係の成立、対象を全人的に捉える視点、健康上のニーズの把握とその解決のプロセスの重要性、論理的な思考、理論と実践の統合を認識し、看護実践能力の基礎を培う。 |
| 授業の内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習内容 病院において、1名の患者を受け持ち、患者の日常生活行動援助を主とした看護過程の展開を行い、臨床看護の基礎的な援助の方法を学ぶ。 2. 実習期間：2週間 ・令和3年8月30日（月）～9月10日（金） ・実習配置についてはAクラスBクラス混合で配置する。 3. 実習病院 箕面市立病院、協立病院、第二協立病院、協和会病院、医誠会病院等 4. 実習の進め方 1) 受持ち患者に対する看護援助を実践する。 2) 受持ち患者への援助は、看護過程の展開により進める。 ・実習1週目に、情報収集・アセスメント・看護診断・計画立案を行う。 ・実習2週目は、特定した看護診断、立案した計画について、指導、承認を得た後、計画に沿った援助を行い、評価を行う。 |
| 学習到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者の個別性を尊重した看護過程の展開を行う。 2) 対象者・家族を人として尊重し、その尊厳を守る言動がとれる。 3) 医療チームの一員としての自覚と責任を認識し行動できる。 4) 実習には積極的、主体的に取り組み、学びを深めることができる。 |
| 授業の方法 | <p>【授業形態】 学外での臨地実習とする。詳細については実習要項をもとにガイダンスで説明するので必ず出席すること。</p> <p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 臨地実習は3人～5人のグループに分かれて実施する。実習先では担当教員の指導のもと、主体的に事前事後の課題を見つけ、解決に向かって行動することが基本である。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】特になし 【その他特記事項】特になし</p> |
| 成績評価の方法 | <p>【評価項目】 自己評価を参考に、実習目標に対する到達状況について、実習記録、教員評価を総合的に評価する。</p> <p>【割合】 自己評価を参考に、看護過程の展開(50%)、その他の実習目標に対する到達状況(30%)、実習態度(20%)など、評価基準により総合的に評価する。</p> |
| 教科書・テキスト | 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院, 2019. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院, 2019. リンダJ.カルペニート：看護診断ハンドブック第11版, 医学書院, 2019. |
| 参考書 | 必要時、紹介する。 |
| 授業時間外の学修について(事前・事後学習について) | 実習までに、基礎看護援助論Ⅰ・基礎看護援助論Ⅱで修得した、日常生活援助技術(環境援助技術、食事援助技術、清潔・衣生活援助技術、活動・休息援助技術)・バイタルサイン測定・感染予防の技術について復習しておくこと。 |
| 履修上の留意事項 | 本実習は、それまでに学習した専門知識や援助技術、問題解決の方法論を活用し、実際に治療あるいは療養中の対象に対して看護援助を提供する体験的学習になります。学習とは言え、実習には当然、看護者としての義務と責任が求められます。その意味を十分自覚し、事前に復習や技術練習を重ね、実習までに必要な準備をしておくことが重要です。それが、結果としての学習効果を決定することになります。 |
| オフィスアワー | 塩野徳史：火曜・水曜日 12:20-13:30 5号館 研究室102 |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 臨地実習では、実習記録を適宜確認し、担当教員からフィードバックを行います。学生自身が積極的に、報告、連絡、相談をとりながら、臨地実習を進めてください。 |
| 実務経験 | 看護師 |
| その他 | 実習開始までに、看護過程の展開方法、基礎医学や主な疾患、治療の知識、基礎的な生活援助技術の根拠を復習し、自分自身の体調管理も含めて、実習中の対象への看護援助について確実に責任をもって実施できるように事前準備をしておくこと。 また新型コロナウイルス感染症の感染状況やその他の感染症の状況を総合的に考慮し、感染対策(マスク着用や手指消毒など)を講じた上で行います。各自、推奨されたワクチン接種の状況について報告した上で、実 |

習が始まる2週間前から体調管理には十分に注意し、健康管理表を持参して提示する必要があります。